

未来

郵政産業ユニオン
PIWU

全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中郵支部
機関紙・「みらい」
NO. 4259
22年6月21日(火)
Tel・Fax 095-828-1953

攻撃されない国へ

おはようございます。

十一日から長崎は梅雨に入った。梅雨とは東アジアだけにある雨季だ。気象学的には梅雨入りの定義はなく、梅雨入り宣言は気象予報官の勘だそう。

つゆは梅雨(ばいう)と書くが、これは中国からの伝来語で、梅の実が熟するころの長雨をさす。

「源氏物語」には梅雨は「さみだれ」と書かれているそうだが、当時は旧暦のため五月雨(さみだれ)と呼び、江戸のころから梅雨という言葉が出てくるそう。

ともあれ七月末までの梅雨の大雨に十分に注意したいものだ。とりわけ今年には長崎大水害の四十周年で、改めて亡くなられた二百九十九名の方のご冥福を祈りたい。



ロシアのウクライナ侵略以降、日本では「侵略されたらどうする」という言葉をよく聞く。自公や維新には核兵器をアメリカと共有する論まで出て、非武装・平和の憲法は風前の灯だ。その正念場とし

て、七月十日と予測される参議院選挙は、護憲政党の真価が問われている。

では、日本が近隣諸国から攻撃を受けたとき、どうするのか？と今一度、聞かれたら、どう答えるのか。

どちらも仮定のことだが、結論を言えば、近隣国とは「攻撃させない外交関係を作る」としか答えようがない。専守防衛とは「戦争をしない」とが一番だからだ。

なぜなら、もし万が一、核兵器が使われたら、世界中の国々や人類の命の保証もないからだ。



戦後、国連安保理の五大国が核兵器を持ち、核抑止論が出て、これで戦争はなくなる、と思われたが、現実には違った。

東西冷戦を経てソ連が崩壊して、アメリカ一極支配の時代でも、いくつもの戦争は起きた。その戦争では劣化ウラン弾などの小型核兵器も使われ、世界の核兵器の現実は一層、厳しい状態だ。

人類史では、武器で人類の命は守られていない。過去、発明された新型の武器で、戦争で相手を殺すために使われなかったものはない。

例えば、アメリカの南北戦争時に出現したガトリング機関銃は、従来の単発銃とは桁外れの威力を発揮した。発明者のガトリングはその機関銃の威力で、軍隊の規模を縮小し、戦死者を減らせるとした。



またダイナマイトを発明したノーベルも、その破壊力ゆえに一種の抑止論を期待していたという。さらに

戦闘機が発明されたときも、欧州では高性能爆撃が敵国民の戦意をなくさせ、結果的に「人命が守られる」ともいわれた。

しかし、これらの新型兵器はいずれも戦争抑止力にならず、ただ、相手を倒すためにだけ使われたに過ぎない。核兵器にも不使用の保障もまたない。現に、先の戦争では広島、長崎にはすでに使われたからだ。

日本は世界の極東に位置するが、西側の国(自由主義国家)だとされる。西側諸国の軍事同盟(北大西洋条約機構(NATO))の国々と価値観を共有するともいう。アジアには四十七の国があるが、ロシアの経済制裁に参

加した国は、韓国とシンガポールと日本の三国だけだ。ほかのアジアの国々は参加せず、中国やロシアとは戦争をしない国として外交関係を維持したいと考えているのだ。(立場はいずれも同じではないが)。

無論、ロシアのウクライナ侵略は許されず、国際法違反だが、国連でもこれを止める力はない。しかし制裁を受けながらもロシアは、戦前の日本やドイツがそうであったように、国連を脱退する気配はない。だから和平の場は国連が中心となる。世界の基本は国連中心の平和主義なのである。日本国憲法にもこれは明記されている。

*** **

郵政ユニオン退職者の小佐々満さんが五月に亡くなられ、仲間たちが葬儀に参加しており、シルバーの集いを開こうとなり、五月二十八日にほぼ二年ぶりの懇親交流会を開いた。集まりはコロナ禍もあり、急ぎよだったが、十三名が参加した。



シルバーユニオンの集い開

集まりの目的は、小佐々さんと十二月に亡くなった松江晴さんの追悼、五月二十七日の旧郵崎労結成記念日の三十二年のお祝い、高口美和子支部長の退職お祝い会と仲間の懇親・交流であった。

現役を代表して参加した山田支部長は、「退職後も組合費を払い、支部を応援してくれるシルバーの仲間には感謝しております。今後ともご支援をお願いします」とのあいさつを受けて、久しぶりながら、にぎやかな懇親会となった。

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員と希望者全員の正社員化を。

めげず、均等待遇を。

ユニオンは労基法裁判に勝利するぞ！

期間雇用パート労働者の皆さん！ 困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。

1集-海江田, 2集-向井, 3集-山田, 支部・分会の役員へ。